

中国人強制連行・西松安野和解 10 周年 あらためて歴史問題の和解を考える

日 時：2019年10月19日(土)14:00～17:00

会 場：広島弁護士会館 2階大会議室（広島市中区上八丁堀 2-73）

参加費：500円

主 催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会

アジア・太平洋戦争の末期、労働力不足を補うために、東条英機内閣が閣議決定して、中国から約4万人の中国人を強制連行し、全国135か所の事業場で重労働に従事させました。その結果、約7,000人が日本で命を落としました。生き残った中国人は、日本敗戦後、何の補償も受けることなく集団で帰国しました。広島では、西松組（現在の西松建設）が360人を安野発電所の建設工事に従事させ、29人が死亡（うち5人は原爆死）し、331人が帰国しました。

1980年代末から中国人被害者の声が日本社会に届くようになり、各地の市民が訪中して当事者から話を聞き、実態を解明してきました。中国人被害者は日本の市民運動の支援を受けて、日本政府や企業を相手に、全国で15件の裁判を闘いました。しかし2007年の最高裁の不当判決により、日本の裁判を通して問題を解決する道が閉ざされました。その間に、日中共同の粘り強い運動により、鹿島花岡、西松安野、西松信濃川、三菱マテリアル12事業場の和解が実現しています。

本年は、中国人強制連行・西松安野和解の成立から10周年になります。この節目にあたり、中国から遺族・許立成さんと肖翠青さんをお招きし、あらためて歴史問題の和解による解決について考える集会を開催します。ふるってご参加ください。



「安野中国人受難之碑」除幕式に参加した5人の生存者（2010年10月23日、広島県安芸太田町坪野）

プログラム



電話：080-3880-8340／Eメール：ykkwhr@pony.ocn.ne.jp